



**f-haiku**

**2014**

Ferris University



# f-haiku

2014

Ferris University

青さがたまに／谷内美紀子 …… 2

里帰り／塚越理恵 …… 3

赤蕪ら／北野貞雄 …… 4

よろめき／濱田 純 …… 5

島の春／川井京子 …… 6

一步入り／若林三枝子 …… 7

大陸の端／石塚久与 …… 8

僕らに水脈／井上雪子 …… 9

遠い／大越千代子 …… 10

冬のこと／吉野裕之 …… 11

後記／吉野裕之 …… 12

青さがたまに

谷内美紀子

\*音楽学部演奏学科四年

ひいやりとガラスの指紋冬来る  
緋と紺のさかひめさがす冬の5時  
日短しあのまちこのまち口遊み  
冬鴉なくなかなかしくなってくる  
あれやそれ言葉いろいろ落ち葉蹴る  
寒い日の夕飯とん汁ひとくちめ

少しだけ宇宙に近づく冬の夜  
ぽりぽりと寝酒とともにいかり豆  
好きなのはぎよしゃ座のカペラ冬の星  
まどろんだ長方形の冬の日  
木星の沁みゆく光冴ゆる夜  
冬の晴れ青さがたまにおそろしい

里帰り

塚越理恵

\*文学部日本文学科四年

ほたほたとふるさとの雪とひとり鍋  
名を問へばおだまきと云ふ門のかげ  
うぐひすや鞆の底のウォークマン  
寒月やさめたココアを抱く終電  
位牌なき仏壇のおく桃ひとつ  
雀子がじつと見てみた花南天

帰り道かかしの背負ったランドセル  
窓ぎはに檸檬がころり高崎線  
熟れすぎた柿のにほひや祖父の庭  
障子貼り今は覗けぬ隠しごと  
白菜の緑にじんだ夕餉かな  
風邪声の友からかかつてくる電話

赤蕪ら

北野貞雄

\*オープンカレッジ

この頃は先頭に立つ墓参かな  
赤蕪らふと故郷を想いけり  
窓際に文机もどす野分あと  
駅中のぶっかけ蕎麦や時雨くる  
どんぐりの沈みて光る小川かな  
干し大根今日よく見える水平線  
野分あと腰で分け入る萩の寺  
ほどほどに支えあう日々なめこ汁  
白菜を一人飛ばしてトスしたり  
極月や捨て去り難き文机  
野天湯に山靴一足秋深し  
一列にカヌー過ぎ行く小春かな

よろめき

濱田 純

\*オープンカレッジ

指濡らし滴り溢れ梨を剥く  
まんじゅしやげ色なきところ色そえて  
部屋に蜘蛛外の世界を連れてくる  
蹲や石露の黄の直立す  
廃業も新設あるや花八つ手  
冬至カナ地軸ワ傾斜公転ス  
起重機の一直線や天高し  
ふらつきて太極拳の冬ざれや  
小雪や多肉植物ふくよかに  
雪薄し市松模様の町景色  
裸木を巡る小鳥や胸白き  
天井にゆらめく光冬うらら

## 島の春

川井京子

\*オープンカレッジ

水牛の目だけ出ている島の春  
夏薊鹿のふりむくゴルフ場  
窓に船出ていくところ夏料理  
万緑の屋根反りかへる仏舎かな  
たちあがる山百合分けて一号車  
神籤みて小鳥くる木に結びけり

無住寺の庭ひそりとし椿の実  
紅玉のひかりものせて置き手紙  
八つ手さく江戸地図の文字さかしまに  
ボール掌でうつ親父らの草野球  
初霜や畝かがやかす嵩のあり  
赫赫の練炭囲むごろくにん

## 一步入り

若林三枝子

\*オープンカレッジ

桜葉降るふくらみを歩きけり  
永き日やゆらりと曲る魚の髭  
咲ききつて雨雲ひくく立葵  
砂粒に触る足裏や釣忍  
天高し香ばしき朝はじまりぬ  
一步入り風濃くなりしななかまど

オリーブの葉好き芋虫肥えにけり  
高きより木屑のひかる秋の暮  
風知草刈つて雨音冬に入る  
子の残すやぶれ障子やしづかなり  
お降りを含み筆先ととのひぬ  
文机にクレヨンのある春近し

## 大陸の端

石塚久与

\*オープンカレッジ

バンダナし銀杏拾ふ夫婦かな  
おかつぱの栗毛輝く七五三  
冬の雨網戸にとまる碧バツタ  
年の暮れコンビニおでん鍋で買ふ  
マフラーの巻き方違ふ双子かな  
年末の帰省列車は豚まん臭

バーチャルの年賀に生けし水仙花  
冬の霧小さき祠に供物あり  
大陸の端に立ちたし野水仙  
千両を切り採る鉄の冷たさ  
あきらめて一人昼寝す寒椿  
乳臭き赤子が笑ふ春の雪

## 僕らに水脈

井上雪子

\*オープンカレッジ

侘助をいくつか拾ふ日曜日  
呼ぶ声の届かぬ子もめて冬帽子  
冬満月たちまち僕も化石に  
トコトコと渡るや夜の椿まで  
寒暁の僕らに水脈レジでチン  
冬木折る緑あおさに胸は解かれぬ

林檎洗ふ実るまでを聞く  
冬の橋たじろぐ光の波長なり  
透明の愉快や氷割る音の  
順まつろはぬ者を畏み撒くは豆  
柴犬に生れていいね春夕焼  
凧上がるひとりになれる青さまで

遠い

大越千代子

\*オープンカレッジ

手のひらや灯り取り込む五月の夜  
宵闇やもえる深紅の駿河湾  
あじさいに水滴落ちる雨の音  
七輪のサンマの煙木々しみる  
梅雨晴れや時間のはやさの物干台  
垣根なり赤々と連なる冬つつじ  
青時雨土まで遠い一滴かな  
くだり坂太陽光の冬やすみ  
勾配がひらけたさきのいも煮かな  
ぶつかって笑い声する追走かな  
空青くコスモスのびる空き家かな  
お正月背中まるめて経を読む

冬のこと

吉野裕之

ほどかれて小春日和となりにけり  
遠くまでよく見える日の花八ッ手  
はつふゆのドアを開ければ段ボール  
かさぶたが大きくなつてゐる師走  
喉彦を大切にせよ冬の空  
美しいこと考へる冬日向  
一合に時間をかけて冬のこと  
そこにゐて小さな声や春隣  
男らのさみしき耳や十二月  
連翹に近寄ることの恐ろしく  
なつかしい声なつかしい冬日和  
各々に椿が落ちて雪の上

## 後記

講師

吉野裕之  
Hiroyuki YOSHINO

『Haku 2014』は、フェリス学院大学のオープンカレッジおよび文学部で俳句の創作を学ぶ、二〇一四年度の受講者による作品集です。

一冊には、自らの作品を広く発信することを希望する、ささやかな、しかし確かな意志持った人たちが集いました（受講者はふたつの講座を合わせて二十名以上ですが、一冊に参加することを躊躇った人も少なくなかったようです）。

俳句は、五七五というたった十七音の小さな器にもかかわらず、めぐる季節の美しさや日々の生活のなかに隠れているたくさんの感動を私たちに気づかせてくれます。俳句を学ぶと、日常の見慣れた風景もとても新鮮な表情を見せてくれます。

皆さんの作品を拝見しながら、あらためてこうした俳句の魅力を実感しています。そしてまた、九十分では足りないなあ、と毎回思った授業を楽しく思い出しています。

多くの方々にこの一冊を読んでいただきたいと思えます。

\*オープンカレッジ「俳句の創作—日本語のすばらしさを学ぶ」（春学期・秋学期開講：各12回）

\*文学部「俳句創作を学ぶ」（秋学期開講：15回）





## f-haiku 2014

2015年3月20日発行

フェリス女学院大学 生涯学習課

〒245-8650 横浜市泉区緑園 4-5-3

tel = 045-812-8390 url = <http://open.ferris.ac.jp/>

頒価 = 300円 (税込)

制作：アトリエ云